

令和5年度 福岡県若年教員研修（養護教諭）

事例検討の意義

～児童生徒の理解と養護教諭の役割～

筑紫女学園大学
大西 良

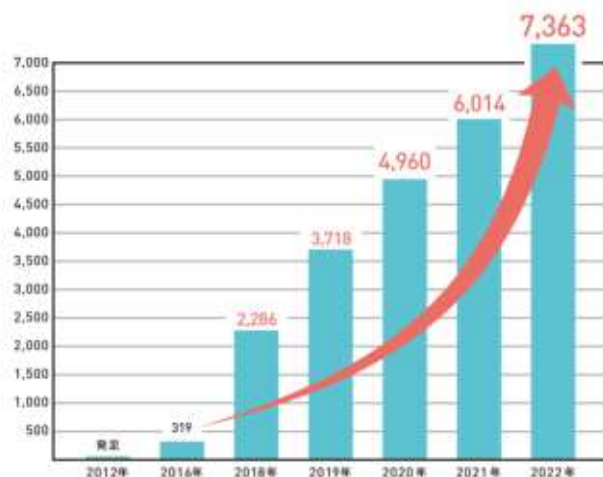


自己紹介



- ・大西 良（おおにし りょう）
- ・筑紫女学園大学 人間科学部 人間科学科 心理・社会福祉専攻 准教授
- ・筑豊地区の小・中学校でスクールカウンセラー（非常勤）として勤務
- ・子ども食堂や食料支援、夜回り（アウトリーチ）活動などに取り組む

全国各地で広がる「こども食堂」

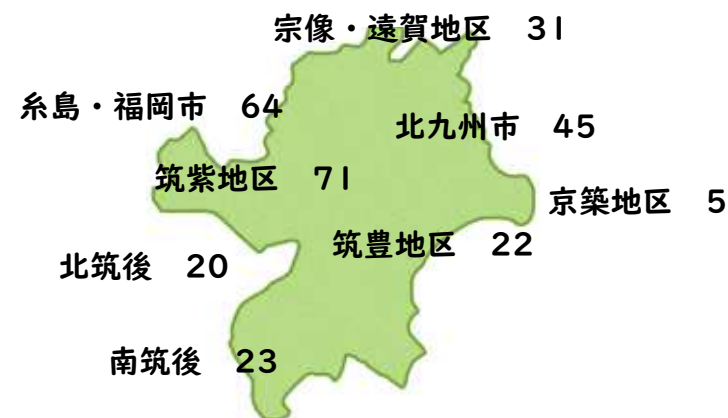


2023年2月現在 確定値

出典：全国こども食堂支援センター・むすびえ ホームページより (<https://musubie.org/news/6022/>)

福岡県内のこども食堂数

2022年 **281**箇所（前年より72箇所増）





委託がれ、こども食堂の輪！推進会議

イマダリ/kanari

多機能化する「こども食堂」



コロナ禍で増えた相談内容

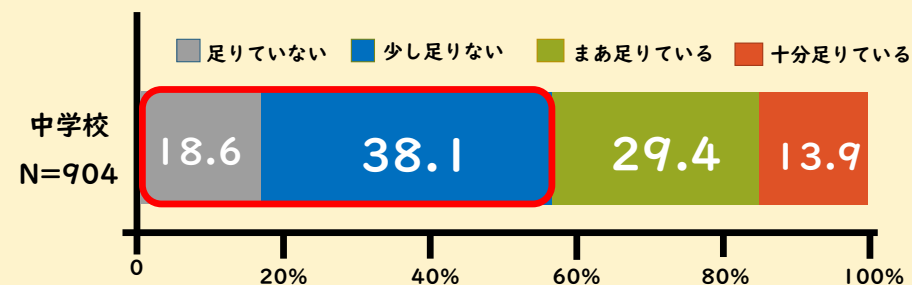
不登校（朝起きられない、学校に行くのが不安など）

生きづらさを訴える子ども（死にたい、自傷行為など）

生活困窮を訴える大人（経済的貧困など）

中学生へのアンケート結果

1.自分の睡眠時間は足りていますか？

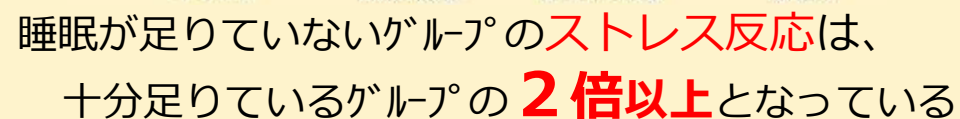


2人に1人は、
睡眠が足りていない と感じている

2.授業中、眠くて仕方ないことがある？



3.睡眠不足とストレスの関係



睡眠日誌

コロナ禍で増えた相談内容

不登校（朝起きられない、学校に行くのが不安など）

生きづらさを訴える子ども（死にたい、自傷行為など）

生活困窮を訴える大人（経済的貧困など）

公園での夜回り（アウトリーチ）活動

5年ほど前から公園などで夜回り（アウトリーチ）の活動をしており、相談窓口の電話番号などが書かれたカードの配布や若者の声を聴く活動を行っています。



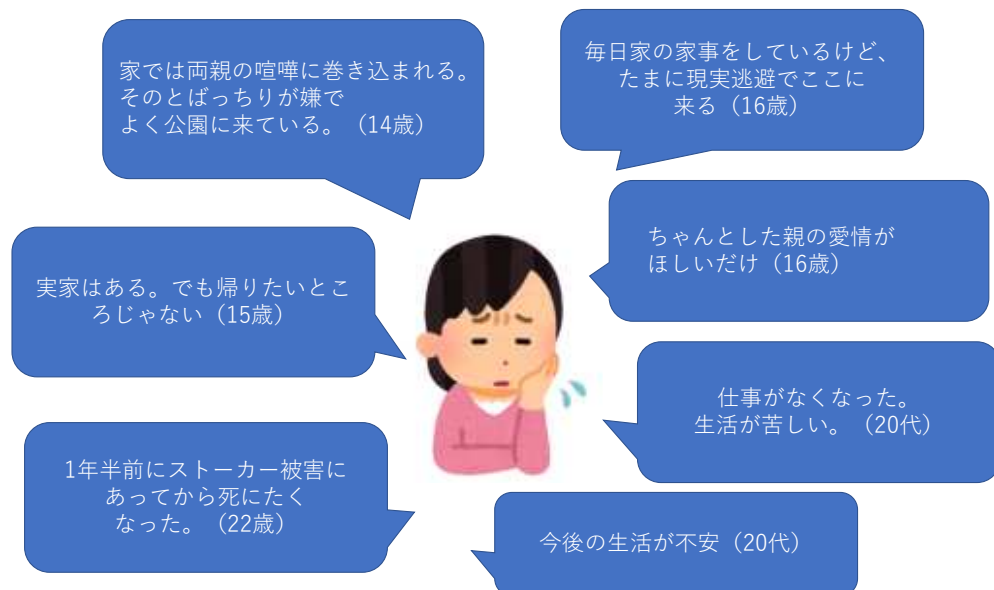
自傷行為は、精神的苦痛や心理的な痛みを身体化すること。

心の痛みを身体の痛みに変換することで、苦しさを鎮める方法である。

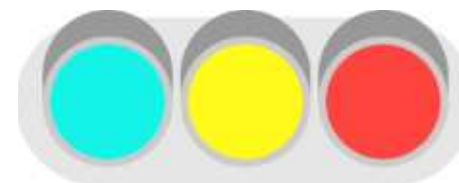
<実際の声>

「皮膚を切って心の痛みに見える傷に変えているんです。心の痛みはわけわからなくて耐えられないけど、身体の痛みならば耐えられるから」

「自分でも気づかないうちに切っていて、傷口から流れる血を見ると、ホッとして安心する」



SOSサインに気づく



黄色信号 や 赤信号 を
灯している子ども・若者への早期支援

傷ついた子どもたちの心の奥深くにある本音と課題にたどり着くために

課題＝問題解決に取り組む段階

本音＝願望と現実の葛藤の段階

傷つき、不安＝問題に向き合う段階

愚痴、不満＝他罰的な段階

雑談＝関係を築く段階

出典：魚住絹代「子どもの問題いかに解決するか」PHP新書 107の図を一部改変

厚生労働省の調査 2023年3月14日発表
自殺した児童生徒数（令和3年度）

514人

小学生 17人

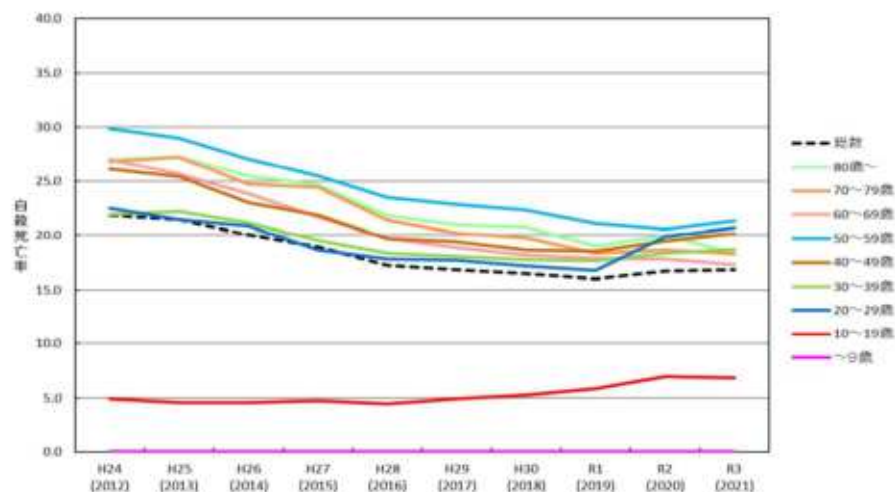
中学生 143人

高校生 354人

過去最多の人数

出典：厚生労働省の調査より

年齢階層別の自殺死亡率の推移



コロナ禍で増えた相談内容

不登校（朝起きられない、学校に行くのが不安など）

生きづらさを訴える子ども（死にたい、自傷行為など）

生活困窮を訴える大人（経済的貧困など）



西日本新聞 2020年6月28日

社会問題としての子どもの貧困

子どもの相対的貧困率

18歳未満の子どものいる世帯の貧困率

13.5%である。

子どもの **7人に1人** (290万人)

が貧困状態にある。

(データは2018年国民生活基礎調査より)

➡ 先進国 (OECD加盟国) の中では、
34カ国中ワースト9位

スクールカウンセラーからみる子どもの貧困

中学3年の男子 (Aくん) の事例

Aくんは中学1年生の夏、大好きだったサッカー部を退部した。顧問には、退部の理由は「友達とのトラブル」と告げていた。中学3年になったある日、Aくんは次のことを語ってくれた。

『僕はサッカーが好きだった。今でもサッカーは好き。でも1年生の時、「友達とのトラブル」を理由に退部した。しかしそれは本当の理由じゃない。本当の理由は「スパイクや練習着を買うお金がなかったから」。それをお母さんには絶対に言えなかった。だって、毎日仕事を頑張って節約しているお母さんに、これ以上大変な思いをさせたくなかった。だから僕はサッカー部を辞めたんだ。』

現代日本の貧困問題

⇒ **相対的貧困** (表面化しにくい貧困)

(定義)

経済格差によって社会で一般市民が「当たり前」と思っているような生活を送れないこと。 <社会福祉辞典>

- ・ 友だちから食事に誘われたけど、お金がないので行くのをやめた
- ・ 修学旅行に行きたいけど、お小遣いを持っていくことができない
- ・ 塾や習い事に通いたいけど、費用が工面できないためあきらめるなど

貧困による4つの“ない” (はく奪)

- ・ お金がない (経済的貧困)
- ・ チャンスがない (機会の貧困)
- ・ つながりがない (関係性の貧困)
- ・ 自信がない、低い自己肯定感 (心の貧困)

貧困は「表面化しにくい問題」

⇒ 比較しないと分からない
(人と比べることで気づく)

貧困と児童虐待との関係

児童虐待が行われた家庭の状況

家庭の状況			あわせて見られる他の状況上位3つ		
1	ひとり親家庭	460 件 (31.8%)	① 経済的困難	② 孤立	③ 就労の不安定
2	経済的困難を抱える家庭	446 件 (30.8%)	① ひとり親家庭	② 孤立	③ 就労の不安定
3	親族・近隣等からの孤立	341 件 (23.6%)	① 経済的困難	② ひとり親家庭	③ 就労の不安定
4	夫婦間不和	295 件 (20.4%)	① 経済的困難	② 孤立	③ 育児疲れ
5	育児疲れ	261 件 (18.0%)	① 経済的困難	② ひとり親家庭	③ 孤立

出所：「児童虐待の実態Ⅱ－輝かせよう子どもの未来、育てよう地域のネットワーク」
(平成17年12月) 東京都福祉保健局

VTR NHKロクいち福岡

デンタルネグレクト（口腔崩壊）

親や保護者による適切な歯科的健康管理
がなされていない状況



「子どもの貧困と健康格差」

こども基本法（令和5年4月施行）

子どもの権利条約（Convention on the rights of the Child）が求めていること

→ 当たり前

子どもの権利：子どもが人間として生きていくうえで当たり前でないと困るもの。

子どもにどのような権利があるの？

大人に求められることは？

大人と同じように認められるもの

差別されないこと
治療を受けられること

生きる権利

自由に自分の意見を言うこと
集まってグループを作ること

参加する権利
(意見を表明する権利)

+

大人へと成長途中にあり、弱い立場にある。

子ども固有のもの

教育を受けること
遊んだり、休んだりすること

育つ権利
(成長・発達する権利)

あらゆる暴力や虐待、いじめ、犯罪
などから守られること

守られる権利
(保護される権利)

子どもの権利を保障し、子どもが成長・発達できるように、
「手助けしたり見守ったりする責任」がある。
保護者は、その第一義的責任を有する。

これまで

子どもの気持ちや意見を聴くことなく、大人が勝手に、
「これが子どもにとって最もよいことだ」として押し
付けてきた。

条約が求めていること

子どもの気持ちや意見を聴いて、それに誠実に応える
こと。
そして、そのコミュニケーションの中から、「その子
にとって最もよいことは何か」を発見し、それを実現
すること。

居場所の現状と課題、及び提言

～居場所づくりにおける理念と大切にしたい視点～

こども家庭庁
こども家庭庁 第5回検討委員会（第5回）より

● こども・若者の居場所づくりにおける理念

心身の状況、置かれている環境等にかかわらず、こども・若者の権利の擁護が図られ、将来にわたって幸福な生活を送ることが
できることを目指す。

● こども・若者の居場所づくりにおいて大切にしたい視点

- 居場所づくりにおいて重要なことは、こども・若者の主体性の尊重である。
- その場を居場所と感じるかどうか等、本人が決めることである。
- そうした観点から、こども・若者の声（視点）を軸に「行きたい・居たい・やってみたい」の3つの視点で整理した。

“行きたい”	“居たい”	“やってみたい”
- 誰でも行けること （年齢や障害等で利用の制限がないこと） - 自分を受け入れてくれる場所があること - 身近にあること - 気軽に行ける。一人でも行けること - いつでも行けること （こども・若者自身が利用可能な時間） - お金がかからないこと - 行き止まりがないこと	- ありのまま、素のままでいられること - 居ることの意味を感じられること - 誰かとつながれること - 誰かとコミュニケーションできること - 話を聞いてくれること - 信頼できる人、場所になつてくれる人がいること - 助けてほしいときに、助けてくれる人がいること - 気の合う人がいること - 安心・安全な場であること - くつろげる環境が整っていること - 目的の明確な人、物、事柄に囲まれていること - 一人で居ても寂しくないこと - 過剰な刺激を受けないこと - 居たいだけ居られること	- あがりを抱える人、居ること - いろいろな人と出会うこと - 一緒に学ぶ人 - 学びをサポートしてくれる人がいること - 好きなこと、やりたいことができること - いろいろな機会があること （趣味や希望に合ったイベントがある） - 新しいことを学べること - 未来や夢を語るきっかけがあること - 自分の意見を伝える、聞いてもらえること （自分の意見が尊重されること） - 自分の役割があること

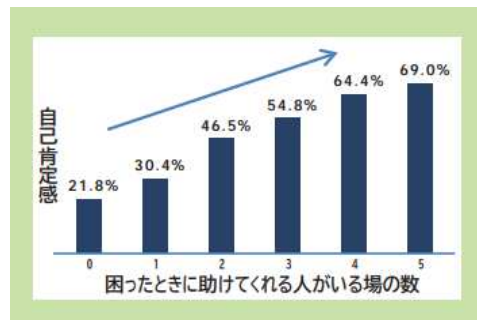
出典：こども家庭庁「こどもの居場所づくりに関する検討委員会（第5回）」より

居場所の数と自己肯定感の関係



出典：内閣府「子供・若者インデクスボード」より

助けてくれる人がいる場の数と自己肯定感の関係



出典：内閣府「子供・若者インデクスボード」より

居場所や助けてくれる人がいる場が多い子どもほど自己肯定感が高い。

学校内にも居場所を！



生きづらさを抱える高校生に、ホッとできる場を。
「校内居場所カフェ」という寄り添い型支援のかたち。

写真：毎週木曜日の昼休みと放課後、県立田奈高校（横浜市青葉区）の図書室で開かれている「ぴっかりカフェ」の様子

最後に

生きづらさの背景には…

貧困や孤立の問題がある。

⇒「つながること」「つなげること」が重要。

学校や地域で“居場所”が必要

「つらいときに“助けて”と言える」、
「ここだとホッとできる」と思える人と場所



ご清聴ありがとうございました。

ご質問などがございましたら、
下記までご連絡をいただくと幸いです。

メールアドレス：

r-onishi@chikushi-u.ac.jp

ありがとう



口腔崩壊 3割の学校に

子どもの歯の健康を巡り、「格差」が指摘されている。1人あたりの虫歯の本数が減ってきた一方で、重い虫歯が10本以上あり、食べ物をとりづらくなる「口腔崩壊」を起している子どももいる。経済的事情を含め、家庭環境の違いが背景にあるとみられている。



■深刻な状態の子どもの

「乳歯20本のうち十数本は虫歯。口腔崩壊の状態だった」

福岡市東区の歯科医院で、中尾哲之医師(小児歯科)は、昨年診察した未就学の女児の写真を示し、振り返った。根だけしか残っていない歯もあり、固い物がほとんど食べられない状態だった。治療で女児に入れ歯を装着すると、笑顔を見せたという。

子どもの歯の健康

「親は仕事が忙しく、子どもの歯の健康まで気が回らない様子だった」。中尾医師は近年、学校の歯科検診でも、同様の事例を目にするようになった。「親が医療機関に連れてこなければ問題は解決しない」と話す。

■各地で実態調査

文部科学省によると、12歳児の永久歯の虫歯は年々減少しており、記録を取り始めた1984年度は平均4.75本だったが、昨年度は0.82本になった。反面、口腔崩壊を起す子どもが目につくことから、各地の保険医協会が実態調査に乗り出している。

長崎県保険医協会は昨年、県内の小中高校と特別支援学校にアンケートを実施。回答した295校のうち、3割にあたる92校が「口腔崩壊の子どもがいる」とした。

口腔崩壊の子どもの家庭状況(複数回答可)を尋ねると、「保護者の理解が不足している」(53

厚生労働省が示す虫歯の予防法

乳幼児	甘味食品や甘味飲料を摂取しすぎない
	1歳6か月を過ぎての就寝時の授乳を避けるなど授乳習慣の改善
学齢期	保護者が毎日「仕上げ磨き」をする習慣の徹底
	フッ化物配合の歯磨き剤の使用
	永久歯への生え替わりなど状況に応じた適切な歯磨き方法を習慣化

・3%)が最多で、「経済的に困難な状態にある」(37%)、「両親が共働き」(35.9%)などが続いた。「親が日々の生活で精いっぱいだった」などの具体例を挙げる学校もあった。佐賀県保険医協会や福岡県歯科保険医協会の調査でも、3割程度の学校が口腔崩壊の子どもがいると答えた。

■地道な支援活動

食事を提供する「子ども食堂」や学習支援会など、何らかの問題を抱える家庭向けのボランティア活動の中で、歯磨きの大切さや方法を指導する取り組みも進んでいる。

昨年11月、福岡県太宰府市で開かれた「子ども食堂」では、歯科衛生士で九州看護福祉大(熊本県玉名市)の職員だった栗原杏奈さん(25)が手作りの紙芝居を使って、子ども6人とその親に歯のケアの大切さを呼びかけていた。模型に歯ブラシをあて、磨き残しのない方法を説明すると、母親たちは熱心に聞き入っていた。

県内で「子ども食堂」などの活動に携わる筑紫女学園大人間科学部の大西良准教授(児童福祉論)は「歯磨きの習慣付けを地道に呼びかけることで、苦しむ子どもを減らす手助けをしたい」と話した。(後田ひろえ)

「すこやかカフェ」への意見、お問い合わせは社会部(ファクス092-7115-6606、メールs-sy-aka1@yomiuri.com)へ。



事例を示しながら、口腔崩壊について説明する中尾医師